



5月15日

5万人あいさつ運動出発式での
粟市長

ごあいさつ

平成30年6月8日

暑い日があったかと思えば、また寒くなり、季節が新緑から梅雨へと向かっていることが感じられます。本格的な梅雨を前に、先月26日には川北町の手取川河川敷で「手取川・梯川総合水防演習」が行われました。石川県では10年ぶりの開催となり、県内100団体の参加、本市からも消防団員30名の皆さんが水害に的確な対応や技術の向上を図るため参加されました。

野々市は手取川の流域という位置付けであり恩恵も受けています。もし、手取川が氾濫したとき野々市はどうなるのかをハザードマップで見ると、末松周辺などが50センチ未満の床下浸水が想定される状況となっています。市内を流れる高橋川や安原川においても、想定を超える状況になることが考えられます。1日には市の水防会議を開催いたしました。関係する機関との連携をとりながら河川の管理や水防体制の強化に努めてまいります。

さらに、今年の大雪に関する市民の皆さんからのご意見を検証するため、第1回の「30豪雪を検証する会」を5月30日に開催いたしました。さまざまな立場の方に委員をお願いし、貴重なご意見やご要望をいただきました。この後、何回かの会議の場を設け、本市の雪害対策に活かしてまいりたいと考えております。

最近の自然災害は突然に起こり、予想もしなかった被害をもたらします。行政をはじめとした、企業や市民の皆さん、関係する団体が、ともに知恵をしぼり熟慮を重ね、ともに汗を流す信頼関係のなかでこそ、防災・減災ができるものと思います。そして、何よりも大切なのは初動ではないかと、今回の雪害対策で感じたところです。万が一の場合は、行政・企業・市民・関係団体が「組織」となり、迅速な対応を図る。日ごろからの連携、協働がここで発揮されると思います。

効果的で実効性のある施策を作りたいと考えております。

中央地区整備事業は現在まで工程通り、順調に工事が進んでおります。中央公民館を中心とする施設に加え、民間商業施設が入ることにより、大変関心が高まっているようにも感じられます。今は全体の計画を最終的に調整している状況ですので、もう少し時間をいただければ具体的な施設の全容をお伝えすることができます。注目しているのは、中央公民館部分と別棟になっている民間商業施設の間に設けた広場の活用です。庇（ひさし）部分を長く延ばすので、そこでは物品の販売や催しものができ、これまでにはない施設となるのではないかと期待しています。

竣工式を3月28日に予定していますが、「学びの杜のいち カレード」と同様に、施設の愛称も募集することになりました。準備を進め、7月号の「広報野々市」やホームページでその内容をお知らせすることができます。この施設が市民の皆さんをはじめ、多くの方々に親しまれ愛される施設となることを願っております。

その形が具体的に見えないものは、別の方法でその存在を感じることができます。「風」は見えませんが、「風」に揺れる草花を見ることや、頬や体で受けることにより「風」の存在がわかります。まちづくりも具体的なカタチができることで、より実感でき、住んでよかったまち、住み続けたいまちになります。そこで生活される皆さんの気持ちが、何らかのカタチとして現れ、さらに住みよいまち野々市になるものと思います。